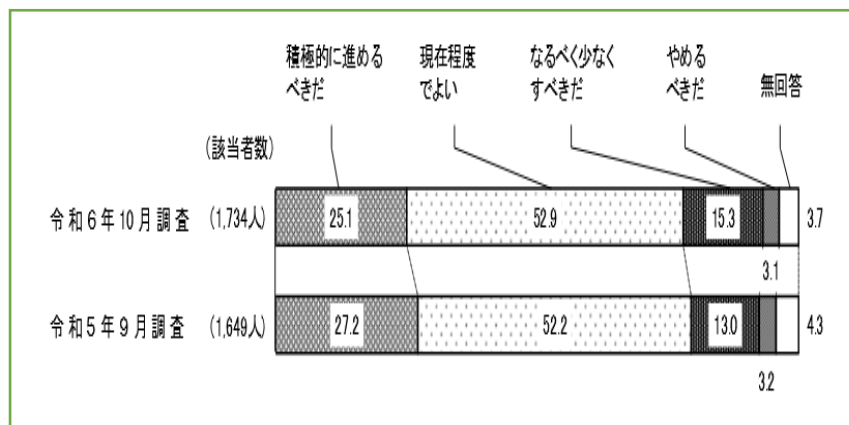


援助は何のため？ ～その根拠とこれからのあり方を探る

JICA の「アフリカ・ホームタウン事業」が撤回されました。この事業が移民政策につながるとの誤解から JICA 解体デモや関係する自治体への抗議が行われ、自治体での通常業務に支障が出ていました。事業を具体化する前に JICA が沈静化を図ったのでしょうか。

では、こうした批判が国民のなかに広がっているのでしょうか。昨年 10 月に実施された内閣府「外交に関する世論調査」を見ると、次のようになっています。

「今後の開発協力のあり方」への設問で「現在程度でよい」が 52.9%であり、「積極的に進めるべきだ」を合わせると肯定する意見が 78%です。



これら二つの事柄において落差が大きい。

開発協力ならびに ODA（政府開発援助）についてその実情が報じられることは少なく、問題と課題があまり

知られていません。したがって、外国人排斥の主張と絡めた意見や行動には警戒すべきでしょう。

私たちは、コトパンジャンダム問題を裁判で闘い、他にも原発輸出やインド新幹線と ODA の関係について追及してきました。同時に、援助のあり方も検討を進めています。

“援助は必要なのでしょうか。援助に問題はないのでしょうか。援助に代わるものはあるのでしょうか”

今回は、こうした問題を提起します。ODA 政策が「途上国の経済成長と福祉の向上」という理念を蔑ろにしながら変化しているため、その批判を深めるために援助の理念から解きほぐしていきます。一緒に考えていきましょう。

実施要領

◇開催日時 2025 年 10 月 26 日（日）14：00～16：00

◇報告者 石橋和彦（コアネット事務局）

◇参加方法 Zoom を使用。開始 10 分前に接続します。

（参加費無料）

<https://us02web.zoom.us/j/9279576794?pwd=WTVEEdExYOUZKTTBXYkkxUzcwUmpLUT09>

ミーティング ID: 927 957 6794 パスコード: 4VV3bw

当日使用する報告は画面共有で行います。